

伊達綱村公の解説パネルと石碑の寄贈を受けました

肯山公三百年遠忌記念顕彰碑実行委員会より、仙台藩第 4 代藩主伊達綱村公(肯山公)の治績をまとめた子ども向け解説パネルと、綱村公が詠んだ漢詩を刻んだ石碑の寄贈を受けました。

解説パネルは、綱村公と塩竈のつながりを平易な文章で解説したもので、市内小中学校への設置を念頭に製作したとのことです。

石碑は、綱村公の三百年遠忌を記念して同実行委員会が志波彦神社鹽竈神社境内に建立した顕彰碑と対をなすもので、綱村公が 29 歳の頃、鹽竈神社を参詣した様子を詠んだ漢詩(五言律詩)が刻まれています。

ご寄贈いただいたパネルと石碑は、塩竈市の貴重な財産として末永く保存・活用してまいります。

<解説パネルについて>

このパネルは、綱村公と塩竈の深いつながりを市内の子どもたちに知ってもらうことを目的とし、同実行委員会により製作されたものです。

綱村公の紹介や「貞享特令」が出された経緯、市内に残る綱村公関連の文化財などについて、児童生徒にも読みやすいようルビを付してまとめてあります。



- 1 サイズ A1 (594×841mm)
- 2 素材 アルミ
- 3 製作主体 肯山公三百年遠忌記念顕彰碑実行委員会 (桑原茂委員長)
- 4 その他
 - ・解説パネルは、教育委員会を通じて市内小中学校に 1 枚ずつ配布します。
 - ・贈呈式については、詳細が決まり次第情報提供致します。

<石碑（五言律詩の碑）について>

塩竈発展の礎を築いた綱村公は、幼少より儒者から直接教育を受けて和漢の学に通じ、高い教養を持っていたことで知られます。今回ご寄贈いただいた石碑は、綱村公の文化的側面を市民の皆様にご知っていただくために製作なされたことです。

石碑に刻まれた漢詩には、綱村公の塩竈神社への深い崇敬の念、人々や自然への暖かな眼差しがよく現れています。

- 1 建立場所 塩竈市西町 21 付近
(神社表参道入口付近の歩道上)
- 2 石材等 黒御影石製 (高さ約 80cm、幅約 40cm)
- 3 建立主体 肯山公三百年遠忌記念顕彰碑実行委員会
(桑原茂委員長)



建立イメージ

4 碑文 (現代語訳)

詣鹽竈
山頭雲鬱鬱 路上雪翩翩
鷄啄南宮里 鴨遊岩切川
風過江海近 烟起竹村連
鹽竈停車處 默祈靈社前
貞享四(一六八七)年
伊達綱村公二十九歳の詩

鹽竈に詣る
山頂には雲が鬱々とかかっている
路上には雪がひらひらと舞っている
南宮の里では鷄が餌を啄み
岩切川では鴨が遊んでいる
風は川や海をこえて近づき
烟は村々から起こって連なる
鹽竈で車(駕籠)を降り
鹽竈神社の前で静かに祈る
※翩翩：軽やかに舞うさま
※南宮：現在の多賀城市南宮

5 その他

- ・石碑に刻まれた漢詩は、綱村公の禅問答や折々に詠んだ詩を集めた『如幻三昧集』に収められている作品です。綱村公の三百年遠忌にあたる本年、東園寺御住職千坂成也様はじめ関係各位のご尽力により『訓注 如幻三昧集』が刊行され、綱村公の業績に容易に触れることができるようになりました。
- ・石碑は教育委員会で管理し、今後解説板などの設置を検討してまいります。

問い合わせ先

塩竈市教育部教育委員会生涯学習課学習支援係

担当：鈴木・白谷 電話：362-2556

塩竈を救った仙台藩主



伊達綱村公

江戸時代の塩竈を救った恩人として今も語り継がれている綱村公とは、
どんなお殿様だったのでしょうか？

綱村公って？

伊達綱村公は、仙台藩初代藩主伊達政宗公のひ孫にあたります。江戸で生まれ、わずか2歳で4代藩主になりました。成人してからは、防風林や運河、お寺・神社などを整備したり、日本各地から様々な職人を招いて産業を興したりしました。学問にも大変力を入れたお殿様で、伊達家の歴史を記録した『伊達治家記録』の編集を始めたのも綱村公です。現在も伝わるたくさんのものを残した「仙台藩中興の名君」です。



伊達綱村像（東園寺蔵）

塩竈が大ピンチに！

仙台の周りは遠浅の砂浜が多く、大きな船が入ることができないため、塩竈にさまざまな商品が荷揚げされ、陸路で仙台まで運ばれていました。仙台藩では、塩竈から蒲生（今の仙台新港のあたり）まで「御舟入堀」という運河を作り、より簡単に荷物を運べるようにしました。しかし、塩竈に入港する船が急に減り、大きな港として栄えていた塩竈は、急速に衰えてしまったのです。

塩竈を救った貞享特令

仙台藩のお殿様は、鹽竈神社をとても大切にしていました。中でも綱村公は鹽竈神社を深く敬っていたため、門前町である塩竈に活気がなくなっていることを心配し、貞享2(1685)年、塩竈を救うための9か条の命令を出しました。これが「貞享特令」です。貞享特令では、仙台藩に入ってくる海産物や材木など、お米以外のほとんどの荷物を積んだ船は必ず塩竈の港に入港するように定められていました。また、毎年250両（今のお金でいうと数千万円）を藩から塩竈の人々に与えるというきまりや、様々な税を免除することも書かれていました。貞享特令によって塩竈は活気を取り戻し、大きく発展することになりました。今の塩竈があるのも、綱村公が出した貞享特令のおかげです。

さらにくわしく

綱村公が13歳のころ、仙台藩の家臣（家来たち）による主導権争いが刃傷（殺人）事件にまで発展した「伊達騒動（寛文事件）」が起きました。藩主である綱村公がまだ幼かったため、江戸幕府による処分は免れましたが、藩が取りつぶされてしまう可能性もありました。この時に仙台藩がなくなっていたら、仙台や塩竈は今とは全く違う姿になっていたかもしれません。

さらにくわしく

御舟入堀が完成したころ、塩竈ではたびたび大きな火事が起きました。港に入る船が減った上、火事も重なって活気がなくなっていた塩竈の人々を元気づけようと、仙台藩の許可を得て若い氏子たちが始めたのが、現在も続く「帆手祭」の起源だと言われています。



塩竈を歩くと、綱村公が残したものをたくさん見つけることができるよ！



01 鹽竈神社

綱村公は神様や仏様への信仰が厚く、各地の神社やお寺をきれいに建て直したり、手厚く保護したりしました。現在の鹽竈神社の社殿は、綱村公が改築を始め、5代藩主の吉村公のときに完成したもので、重要文化財に指定されています。また、鹽竈神社にまつられている神様を「鹽竈神社縁起」で確定したのも綱村公です。



02 表参道の石鳥居

202段の石段で有名な表参道（表坂）。入り口にある大きな石の鳥居は、鹽竈神社を造営した記念に綱村公の名で奉納されたものです。表参道に向かって左側の柱には、綱村公の子供の頃の名前「亀千代」という文字が刻まれています。材料の石は、岩手県の一関から船で運ばれたそうです。



03 東園寺碑

綱村公が亡くなった後、塩竈の人々は旭町の東園寺に綱村公の位牌をまつり、供養を続けてきました。東園寺の境内には綱村公の功績を称える石碑があります。江戸時代に作られた石碑は火事で壊れ、一部が残るだけですが、石碑を写し取った拓本が残っているほか、昭和59(1984)年に市民が新しく建てた石碑を見ることができます。



04 鷹の巣浦の干拓

現在の尾島町、新富町、旭町にかけての国道45号線沿いの地域は、かつて「鷹の巣浦」と呼ばれた入江でした。第三小学校のあたりまでが海だったそうです。鷹の巣浦は、綱村公が出した貞享特令によって新しい由として開発することが特別に許され、堤防が作られて干拓が進められました。



どうして綱村公は「肯山公」「肯山様」と呼ばれているの？



綱村公の戒名は…
大年寺殿故羽林中郎将
肯山全提大居士



ここから「肯山公」とか「肯山様」と呼ばれることもあるんだ。

※戒名：お坊さんにつけてもらう名前のこと



3本の鉄塔が目印！



綱村公のお墓は、仙台の大佛寺にあるんだよ。

「大年寺」というお寺では、綱村公の命日の六月二十日に毎年法要が行われていて、塩竈から参列する人もいます。前日の十九日には、東園寺でも法要が行われていますよ。



鹽竈神社博物館に行ってみよう！

鹽竈神社の境内にある博物館には、伊達家のお殿様たちが神社に奉納した宝物がたくさん展示されています。綱村公が納めた太刀や、綱村公の甲冑を間近で見ることができます。足を運んで、塩竈の歴史に触れてみてください。

※塩竈市内の小中学生は無料で観覧可能です。（土日祝祭日の平常展のみ）



黒漆五枚胴具足（伊達綱村所用）



国重要文化財 太刀 銘 来国光

国重要文化財 金梨地菊・竹に雀紋蒔絵糸巻太刀拵

肯山公三百年遠忌記念顕彰碑について

この解説パネルは、平成30(2018)年、綱村公の三百年遠忌（没後300年）を記念し、塩竈市民有志により発足した「肯山公三百年遠忌記念顕彰碑建立実行委員会」が制作したものです。実行委員会では、志波彦神社・鹽竈神社の境内に綱村公の顕彰碑を建立しました。石碑に刻んである「報恩」の文字は、政宗公や綱村公の直系の子孫である仙台伊達家第18代御当主の伊達崇宗様に書いていただいたものです。神社を参拝する際には、ぜひ見学してみてください。

